

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問 1

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、人の疾病の診断、治療もしくは予防に使用されること、または人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品である。
- b 医薬品は、販売前に安全性に関する十分な審査がされており、保健衛生上のリスクを伴うことはない。
- c 医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮するものである。
- d 医薬品は、知見の積み重ねによって、有効性、安全性等に関する情報が集積されており、随時新たな情報が付加されるものである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 2

医薬品のリスク評価に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品は、食品と同じ安全性基準が要求されている。
- 2 医薬品は、少量の投与でも長期投与されれば慢性的な毒性が発現する場合がある。
- 3 医薬品のリスク評価では、医薬品毒性試験法ガイドラインに沿って、単回投与毒性試験や反復投与毒性試験などの毒性試験が厳格に実施されている。
- 4 医薬品の投与量と毒性の関係は、効果よりも有害反応が強く発現する「中毒量」となり、「最小致死量」を経て、「致死量」に至るため、治療量上限が設定されている。

問3

医薬品の本質に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 殺虫剤など人体に対して使用されない医薬品は、人体がそれに曝されて健康を害するおそれはない。
- b 一般用医薬品は、一般の生活者が自ら選択し、使用するものであるが、一般の生活者では、添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、効能効果や副作用等について誤解が生じることがある。
- c 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較して、保健衛生上のリスクは相対的に高いと考えられている。
- d 医薬品は、多くの場合、人体に取り込まれて作用し、効果を発現させるものである。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問4

健康食品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 特定保健用食品は、「特定の保健機能の表示」が許可されている。
- b 近年、セルフメディケーションへの関心が高まるとともに、健康補助食品（いわゆるサプリメント）などが健康推進・増進を目的として広く国民に使用されるようになった。
- c 栄養機能食品は、各種ビタミンの「栄養機能の表示」ができない。
- d 機能性表示食品は、疾病に罹患している者の健康の増進に役立つ旨または適する旨を表示するものである。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問5

アレルギーに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 通常の免疫反応は、人体にとって有害なものを体内から排除するための必要な過程であるが、アレルギーでは組織に過剰に刺激を与えることがある。
- b アレルギーは、医薬品の薬理作用とは関係なく起こり得る。
- c アレルギーは、内服薬によって引き起こされ、外用薬では引き起こされることはない。
- d 医薬品の中には、鶏卵や牛乳等を原材料として作られているものがあるため、それらに対するアレルギーがある人では使用を避けなければならない場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問6

一般用医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、一般の生活者が自らの判断で使用するものではない。
- b 一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等から副作用の発生の経過を聴いて、その後の適切な医薬品の選択に資する情報提供を行う必要がある。
- c 一般用医薬品の使用に際しては、通常は、その使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用の回避が優先される。
- d 一般用医薬品を継続して使用する場合には、特段の異常が感じられなくても医療機関を受診するよう、医薬品の販売等に従事する専門家から購入者等に促していくことも重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問7

一般用医薬品の不適正な使用と有害事象に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の不適正な使用には、使用する人の誤解や認識不足に起因するものがある。
- b 一般用医薬品には、習慣性・依存性のある成分は含まれていない。
- c 一般用医薬品を、みだりに他の医薬品や酒類と一緒に摂取すると、急性中毒等を起こす危険性が高くなる。
- d 一般用医薬品においても、乱用の繰り返しによって慢性的な臓器障害を生じるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問8

他の医薬品との相互作用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 複数の医薬品を併用した場合、医薬品の作用が増強することがあるが、作用が減弱することはない。
- b 医薬品の相互作用は、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こり、医薬品の代謝や排泄の過程では起こらない。
- c かぜ薬、解熱鎮痛薬、アレルギー用薬等では、成分や作用が重複することが多く、通常、これらの薬効群に属する医薬品の併用は避けることとされている。
- d 一般用医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等が医療機関・薬局から交付された薬剤を使用している場合には、診療を行った医師もしくは歯科医師または調剤した薬剤師に相談するよう説明がなされるべきである。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問9

医薬品と食品との相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 食品と飲み薬が体内で相互作用を生じる場合、しばしば「飲み合わせ」と表現される。
- b 種類（アルコール）をよく摂取する者は、アセトアミノフェンの十分な薬効が得られないことがある。
- c 総合感冒薬とコーヒーと一緒に服用すると、カフェインの過剰摂取となる場合がある。
- d 外用薬や注射薬では、その作用や代謝は、食品によって影響を受けることはない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問10

小児と医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意において、小児の年齢区分は、おおよそ12歳未満を目安とする。
- b 小児は、医薬品成分の代謝・排泄に時間がかかり、作用が強く出過ぎたり、副作用がより強く出ることがある。
- c 5歳未満の幼児に使用される錠剤やカプセル剤等の医薬品では、服用時に喉につかえやすいので注意するよう添付文書に記載されている。
- d 一般に乳幼児は、容態が変化した場合に、自分の体調を適切に伝えることが難しいため、医薬品を使用した後は、保護者等が乳幼児の状態をよく観察することが重要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 1 1

高齢者に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の治療の妨げとなる場合がある。
- 2 一般に生理機能が衰えつつあるので、若年時と比べて副作用が生じるリスクは低くなる。
- 3 医薬品の飲み忘れを起こしやすい傾向があり、家族の理解や協力も含めた配慮が重要となることがある。
- 4 喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まってくることに加え、医薬品の副作用で口渇を生じることがあり、誤嚥を誘発しやすくなるので注意が必要である。

問 1 2

妊婦または妊娠していると思われる女性あるいは母乳を与える女性（授乳婦）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品には、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価が容易であるため、妊婦の使用については「相談すること」としているものは少ない。
- b 胎盤には、胎児の血液と母体の血液が混ざり合う仕組みがある。
- c 医薬品の種類によっては、授乳婦が使用した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られている。
- d 乳幼児に好ましくない影響が及ぶことが知られている医薬品については、授乳期間中の使用を避けるか、使用後しばらくの間は授乳を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 13

プラセボ効果（偽薬効果）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用したとき、結果的または偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをプラセボ効果という。
- b プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることもある。
- c プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）は全く関与していない。
- d プラセボ効果によってもたらされる反応や変化は、望ましいもの（効果）のみであり、不都合なもの（副作用）はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問14

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）およびCJD訴訟に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

なお、2箇所の（ b ）内は、どちらも同じ字句が入る。

CJD訴訟は、（ a ）手術等に用いられていた（ b ）を介してCJDに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。（ b ）の原料が採取された段階で（ c ）の一種であるプリオンに汚染されている場合があり、プリオン不活性化のための十分な化学的処理が行われないうま製品として流通し、手術で移植された患者にCJDが発生した。

a b c

- 1 脳外科 ヒト乾燥硬膜 ウイルス
- 2 脳外科 ヒト乾燥硬膜 タンパク質
- 3 脳外科 ウシ乾燥硬膜 タンパク質
- 4 心臓血管外科 ヒト乾燥硬膜 ウイルス
- 5 心臓血管外科 ウシ乾燥硬膜 ウイルス

問15

一般用医薬品の役割に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 軽度な疾病に伴う症状を改善する。
- b 生活習慣病等の疾病に伴う症状発現を予防(科学的・合理的に効果が期待できるものに限る。)する。
- c 生活の質(QOL)を改善・向上する。
- d 健康状態を自己検査する。

a b c d

- 1 正 正 正 誤
- 2 正 正 誤 正
- 3 正 誤 正 正
- 4 誤 正 正 正
- 5 正 正 正 正

問 16

一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の販売に従事する専門家は、購入者が適切な医薬品を選択し、適正に使用するよう働きかけることが重要である。
- b 医薬品の販売に従事する専門家からの情報提供は、できるだけ専門用語を用いて説明し、購入者に理解してもらおうと実効性が高まる。
- c 一般用医薬品の場合、必ずしも情報提供を受けた本人が使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。
- d 医薬品の適正な使用のための必要な情報は一般的・網羅的に添付文書に記載されているので、積極的な情報提供は不要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

問 17

登録販売者が一般用医薬品の購入者から確認しておきたいポイントに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a その医薬品を使用する人として、高齢者や小児、妊婦等が想定されるか。
- b その医薬品を使用する人の血液型は何型か。
- c その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けているか。
- d その医薬品を使用する人が過去にアレルギーの経験があるか。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

問 18

サリドマイドおよびサリドマイド訴訟に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 催眠鎮静剤等として販売されていたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児にサリドマイド胎芽症が発生した。
- b サリドマイド胎芽症として、出生児の四肢欠損、耳の障害等の先天異常がある。
- c サリドマイド訴訟は、製薬企業が被告として提訴され、国は被告として提訴されなかった。
- d 西ドイツ(当時)では、サリドマイド製剤の催奇形性について早期に警告が発せられたため、サリドマイドの薬害事件は日本でのみ問題となった。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 19

スモンおよびスモン訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スモン訴訟とは、総合感冒薬として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b スモンの症状は、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。
- c スモン訴訟は国および製薬企業が提訴されたが、早期救済のため、地裁および高裁において和解が勧められ、全面和解が成立した。
- d スモン訴訟を契機として、医薬品の副作用報告制度が創設された。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 20

H I V 訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a H I V 訴訟は、白血病患者がヒト免疫グロブリン製剤の投与を受けたことにより、H I V に感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- b H I V 訴訟は国および製薬企業を被告として、大阪地裁、東京地裁に提訴され、1996年3月に両地裁で和解が成立した。
- c H I V 訴訟の和解を踏まえ、国はH I V 感染者に対する恒久対策として、エイズ治療研究開発センターおよび拠点病院の整備等の取り組みを推進している。
- d H I V 訴訟を踏まえ、国は製薬企業に対し従来の副作用報告に加えて感染症報告を義務づけた。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

Ⅲ 主な医薬品とその作用

問 2 1

かぜおよびかぜ薬（総合感冒薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜ薬の多くは、原因となるウイルスの増殖を抑制する作用を有する。
- b かぜであるからといって、必ずしもかぜ薬を選択するのが最適とは限らない。
- c 急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき、または症状が重篤なときは、かぜではない可能性が高い。
- d かぜ薬に配合される主な解熱鎮痛成分としては、アスピリンやアセトアミノフェン、イブプロフェンなどがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 2 2

かぜ薬の成分に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a) は15歳未満の小児で水痘（水疱瘡）またはインフルエンザにかかっているときには使用を避ける必要があるが、一般の生活者にとっては、かぜとインフルエンザとの識別は必ずしも容易でない。インフルエンザの流行期には解熱鎮痛成分が (b) や生薬成分のみからなる製剤の選択を提案するなどの対応を図ることが重要である。

	a	b
1	アセトアミノフェン	エテンザミド
2	アセトアミノフェン	クロルフェニラミンマレイン酸塩
3	エテンザミド	クロルフェニラミンマレイン酸塩
4	エテンザミド	アセトアミノフェン
5	クロルフェニラミンマレイン酸塩	アセトアミノフェン

問 2 3

漢方処方製剤に関する副作用の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 葛根湯、小青竜湯にはカンゾウが含まれているので、重篤な副作用として偽アルドステロン症を生じることがある。
- b 麻黄湯は、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感、発汗過多、全身脱力感等の副作用が現れやすいので、不向きである。
- c 小柴胡湯は、まれに重篤な副作用として間質性肺炎や肝機能障害を生じるが、インターフェロン製剤を併用すると副作用は軽減される。
- d 小建中湯は、重篤な副作用として、間質性肺炎や肝機能障害を生じる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 2 4

かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 葛根湯は、感冒の初期であれば、体力の程度にかかわらずだれにでも適している。
- b 麻黄湯は、体力充実したかぜの後期の諸症状に適している。
- c 桂枝湯は、体力虚弱で、汗が出るもののかぜの初期に適している。
- d 小青竜湯は、体力中等度またはやや虚弱で、うすい水様の痰を伴う咳や鼻水が出るもののが管支炎、感冒等に適している。

1	(a、b)	2	(a、c)	3	(b、d)	4	(c、d)
---	-------	---	-------	---	-------	---	-------

問 2 5

解熱鎮痛薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 発熱や痛みの原因となっている病気や外傷を根本的に治すものではない。
- b イブプロフェンは、体内におけるプロスタグランジンの産生を抑制し、痛みや発熱を緩和する。
- c 腎機能に障害がある場合でも、その症状を悪化させることはない。
- d 心臓に障害がある場合でも、その症状を悪化させることはない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 2 6

解熱鎮痛薬の副作用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 重篤な副作用として、ショック（アナフィラキシー）、皮膚粘膜眼症候群や中毒性表皮壊死融解症、喘息を生じることがある。
- b アスピリン喘息は、解熱鎮痛成分の中でもアスピリン特有の副作用である。
- c サリチル酸系解熱鎮痛成分は、ライ症候群の発生が示唆されている。
- d 基礎疾患がなければ、解熱鎮痛薬を長期連用しても、副作用は生じない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問27

抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 脳内におけるヒスタミン刺激を増加させることにより、眠気を促す。
- b 妊婦または妊娠していると思われる女性でも、使用を避ける必要はない。
- c 慢性的に不眠症状がある人を対象とするものではない。
- d 目が覚めたあとも、注意力の低下やめまいを起こすことがあるので、注意が必要である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 28

神経質、精神不安、不眠等の症状の改善を目的とした漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 加味帰脾湯は、体力中等度以下で、心身が疲れ、血色が悪く、ときに熱感を伴うものの精神不安や神経症、不眠症に適している。
- b 柴胡加竜骨牡蛎湯は、体力中等度以下で、心身が疲れ、精神不安、不眠などがあるものの不眠症に適している。
- c 酸棗仁湯は、体力中等度以上で、精神不安があつて、動悸、不眠、便秘などを伴う高血圧の随伴症状、神経症に適している。
- d 抑肝散は、神経がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの不眠症などに用いられ、また小児夜なきにも適している。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問 29

カフェインに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 反復摂取により依存を形成する性質があるため、短期間の服用にとどめ連用をしない。
- b 心筋を興奮させる作用があるため、心臓病のある人は服用を避ける。
- c 胃液分泌亢進作用があるため、胃潰瘍のある人は服用を避ける。
- d 血液-胎盤関門を通過しないので、妊娠中に服用しても、胎児の発達に影響はない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問30

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ジフェニドール塩酸塩は、眠気、排尿困難、縮瞳といった副作用を示す。
- b ジメンヒドリナートやメクリジン塩酸塩は、一般用医薬品では専ら乗物酔い防止薬に配合される抗ヒスタミン成分である。
- c スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、抗コリン成分である。
- d ジプロフィリンは、胃粘膜への局所麻酔作用により嘔吐刺激を和らげる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問31

咳を抑えることを目的とする成分のうち、麻薬性鎮咳成分であり、授乳中の女性が避けなければならない成分はどれか。

- 1 ノスカピン塩酸塩
- 2 チペピジンヒベンズ酸塩
- 3 クロペラスチン塩酸塩
- 4 ジヒドロコデインリン酸塩
- 5 ジメモルファンリン酸塩

問32

咳止めや痰を出しやすくする目的で用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 麻杏甘石湯は、体力中等度あるいはそれ以上で、咳が出て、ときにのどが渇くものの咳、気管支炎、小児喘息に適している。
- b 麦門冬湯は、体力中等度以上のもので、水様性の痰が多い人に適している。
- c 半夏厚朴湯は、体力中等度をめやすとして、気分がふさいで、咽喉・食道部に異物感があり、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴う不安神経症、咳、しわがれ声に適している。
- d 柴朴湯は、まれに重篤な副作用として、間質性肺炎、肝機能障害を生じることが知られている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問33

胃に作用する薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 制酸成分を主体とする胃腸薬は、炭酸飲料で服用すると制酸作用が強くなりすぎる可能性がある。
- b アルジオキサは、透析を受けている人は使用を避ける。
- c ピレンゼピン塩酸塩は、排尿困難の症状のある人や緑内障の診断を受けた人でも問題なく使用できる。
- d アズレンスルホン酸ナトリウムは、胃粘膜保護・修復成分である。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問34

胃腸の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 六君子湯は、体力中等度以下で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえて疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの食欲不振、胃痛などに適している。
- b 人参湯は、体力中等度以上で、胃がもたれて消化が悪く、ときに吐きけ、食後に腹が鳴って下痢の傾向のある人における食べすぎによる胃のもたれ、消化不良に適している。
- c 桂枝加芍薬湯は、体力中等度以下で腹部膨満感のある人のしぶり腹、下痢、便秘に適している。
- d 麻子仁丸は体力中等度以下で、ときに便が硬く塊状なものの便秘に適している。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問35

止瀉薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a タンニン酸ベルベリンは、収斂作用と抗菌作用を併せ持つ。
- b 収斂成分を主体とする止瀉薬は、細菌性の下痢や食中毒のときに用いる。
- c ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬は、食べすぎ・飲みすぎによる下痢、寝冷えによる下痢に用いる。
- d 腸管内の有害物質を吸着させる目的で、炭酸カルシウムが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問36

瀉下成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a マルツエキスの主成分は麦芽糖であり、主に乳幼児の便秘に用いられる。
- b カルメロースナトリウムは、腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増し、大腸を刺激して排便を促す。
- c ビサコジルやピコスルファートナトリウムは、膨張性瀉下成分である。
- d センノシドが配合された瀉下薬は、妊婦または妊娠していると思われる女性は使用を避けるべきである。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問37

心臓および心臓に作用する薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 心臓は、通常、体性神経系によって意識的に調整がなされ、血液を全身に循環させるポンプの働きを担っている。
- b 心臓の働きが過剰になると、酸素の供給が過多となり、呼吸運動によって取り込む空気の量を減らすことで、息切れが起こる。
- c 心臓の働きが低下して十分な血液を送り出せなくなり、脈拍数を増やすことによってその不足を補おうとして動悸が起こる。
- d 強心薬は、疲労やストレス等による軽度の心臓の働きの乱れについて、心臓の働きを整えて、動悸や息切れ等の症状の改善を目的としている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 38

強心作用を期待して用いられる生薬成分に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a) は、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬である。

(b) は、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬である。

(c) は、シカ科のマンシュウアカジカまたはマンシュウジカの雄のまだ角化していない、もしくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬である。

a b c

- 1 ゴオウ センソ ロクジョウ
- 2 ゴオウ センソ ジャコウ
- 3 ロクジョウ ジャコウ センソ
- 4 センソ ロクジョウ ジャコウ
- 5 センソ ゴオウ ロクジョウ

問 39

高コレステロール改善成分の効能効果に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンB2（リボフラビン）は、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成する。
- b 大豆油不飽和脂肪酸（ソイステロール）は、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- c パンテチンは、LDL等の異化排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、HDL産生を高める作用があるとされる。
- d ポリエノスファチジルコリンは、細胞内の酸化還元系やミトコンドリアにおける電子伝達系に働き、糖質、脂質の生体内代謝に広く関与する。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 40

貧血および貧血用薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 巨赤芽球貧血は悪性貧血とも呼ばれており、ビタミンCの不足から生じる。
- b 服用の前後30分に緑茶を摂取すると、鉄の吸収がよくなることが知られている。
- c 貧血を改善するため、正常な赤血球の形成に働くビタミンB12や葉酸などが配合されている場合がある。
- d 体の成長が著しい年長乳児や幼児は、鉄欠乏状態を生じやすい。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 4 1

月経不順の諸症状に用いられる漢方処方製剤について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 猪苓湯
- b 当帰芍薬散
- c 八味地黄丸
- d 加味逍遙散

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 4 2

アレルギーに関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所の (c) 内は、いずれも同じ字句が入る。

アレルゲンが皮膚や粘膜から体内に入り込むと、その物質を特異的に認識した (a) によって (b) が刺激され、細胞間の刺激の伝達を担う生理活性物質である (c) やプロスタグランジン等の物質が遊離する。遊離した (c) は、血管拡張、血管透過性亢進等の作用を示す。

a b c

- 1 免疫グロブリン 肥満細胞 ヒスタミン
- 2 免疫グロブリン 肥満細胞 アドレナリン
- 3 免疫グロブリン 交感神経 ヒスタミン
- 4 肥満細胞 交感神経 アドレナリン
- 5 肥満細胞 副交感神経 アドレナリン

問 4 3

内服アレルギー用薬の配合成分と、使用上の注意に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

成分 使用上の注意

- a ジフェンヒドラミン塩酸塩 授乳中の人には本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること。
- b メキタジン 重篤な副作用として胃潰瘍が起こることがある。
- c ヨウ化イソプロパミド 服用後、乗物または機械類の運転操作をしないこと。
- d プソイドエフェドリン塩酸塩 低血圧の診断を受けた人は、服用前に医師または薬剤師に相談すること。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 4 4

鼻炎用点鼻薬の配合成分とその作用に関する記述について、誤っているものはどれか。

[成分] [作用]

- 1 リドカイン・・・局所を麻酔し、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒みを抑える。
- 2 ケトチフェン・・・ヒスタミンの働きを抑えることにより、くしゃみや鼻汁等の症状を緩和する。
- 3 ナファゾリン塩酸塩・・・副交感神経を刺激して鼻粘膜を通っている血管を拡張させ、鼻粘膜の腫れを和らげる。
- 4 グリチルリチン酸二カリウム・・・抗炎症作用により鼻粘膜の炎症を和らげる。

問 4 5

眼科用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ネオスチグミンメチル硫酸塩は、コリンエステラーゼの働きを抑え、毛様体におけるアセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する。
- b コンドロイチン硫酸ナトリウムは、交感神経を刺激し、結膜を通っている血管を収縮させて目の充血を除去する。
- c プラノプロフェンは、炎症の原因となる物質の生成を抑え、目の炎症を改善する。
- d スルファメトキサゾールは、抗菌作用を示し、結膜炎やものもらい（麦粒腫）などの化膿性の症状を改善する。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 4 6

点眼薬を使用する際の注意点に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a コンタクトレンズをしたままでの点眼は、添付文書に使用可能と記載されていない限り行うべきでない。
- b 点眼後は、数秒間、まばたきを繰り返して、薬液を結膜囊内に行き渡らせる。
- c 一度に何滴も点眼しても効果が増すわけではないので、1回に1滴ずつ正確に点眼する。
- d 点眼薬では、目の充血や痒み、腫れ等の局所性の副作用が現れることはあるが、全身性の副作用が現れることはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問47

きず口等の殺菌消毒成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a オキシドールの作用は持続的で、組織への浸透性は高い。
- b マーキュロクロムは、ヨードチンキと混合すると不溶性沈殿を生じて殺菌作用が低下する。
- c 消毒用エタノールの作用は、過酸化水素の分解に伴って発生する活性酸素による酸化および発生する酸素による泡立ちによる物理的な洗浄効果である。
- d クロルヘキシジン塩酸塩は、一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、結核菌やウイルスに対する殺菌消毒作用はない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問48

外皮用薬として用いられる非ステロイド性抗炎症成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a プロスタグランジンの産生を抑制することで作用を発揮する。
- b 外皮用薬として使用する場合には、内服とは違い喘息の副作用を起こすことはない。
- c 筋肉痛や関節痛等に対して、繰り返し使用することで鎮痛効果が増すことが期待できる。
- d 痛みや腫れを鎮めることでかえって皮膚感染が自覚されにくくなるおそれがあり、化膿している患部については使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問 4 9

肌の角質化、かさつきを改善する成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a いぼに用いる医薬品は、原因となるウイルスに対する抑制作用を有している。
- b サリチル酸は、角質成分を溶解することにより角質軟化作用を示す。
- c 尿素は、角質層を構成するケラチンを変質させることにより角質軟化作用を示す。
- d オリブ油は、角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善する。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |

問 5 0

化膿性皮膚疾患の治療に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

にきびは、最も一般的に生じる化膿性皮膚疾患である。その発生要因の一つとしては、老廃物がつまった毛穴の中で皮膚常在菌である (a) が繁殖することが挙げられる。

また、バシトラシンは、細菌の (b) を阻害することにより抗菌作用を示すことで、化膿性皮膚疾患の治療に使用される。

- | | a | b |
|---|---------|---------|
| 1 | アクネ菌 | タンパク質合成 |
| 2 | アクネ菌 | 細胞壁合成 |
| 3 | 黄色ブドウ球菌 | DNA合成 |
| 4 | 黄色ブドウ球菌 | 細胞壁合成 |
| 5 | 白癬菌 | タンパク質合成 |

問5 1

口内炎および歯痛に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 口内炎が長期間持続するあるいは再発を繰り返す場合には、口腔粘膜に生じた腫瘍やペーチェット病の可能性はある。
- b 口内炎は、医薬品の副作用として生じる場合もある。
- c 歯痛は、歯肉炎が重症化して、炎症が歯周組織全体に広がったものである。
- d 歯痛薬は、歯の齶蝕を修復する。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問5 2

禁煙補助剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 咀嚼剤の禁煙補助剤は、噛むことで放出されたニコチンが口腔粘膜から吸収されて循環血液に移行するため、唾液が十分に分泌されるようにしっかり噛むことが必要である。
- b 禁煙達成には時間を要することが多いが、添付文書で定められた期間を超える使用は避けるべきである。
- c 禁煙達成はニコチン摂取量と関係するため、咀嚼剤の禁煙補助剤であれば1度に2個以上の使用が必要である。
- d 禁煙補助剤は喫煙を完全に止めたうえで使用する。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 5 3

滋養強壯保健薬に含まれる成分とその特徴の組み合わせについて、正しいものはどれか。

[成分] [特徴]

- 1 ビタミンB2・・・夜間視力の維持や皮膚や粘膜の機能を正常に保つ作用がある。
- 2 ビタミンE・・・過剰摂取により、高カルシウム血症、異常石灰化を引き起こすことがある。
- 3 システイン・・・赤血球の形成に必須で、神経機能を正常に保つ作用がある。
- 4 アミノエチルスルホン酸（タウリン）・・・体のあらゆる部分に存在し、細胞の機能が正常に働くために重要な物質である。

問 5 4

滋養強壯保健薬およびそれに含まれる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンCの過剰摂取による歯ぐきからの出血や鼻出血に注意が必要である。
- b 早期に効果が得られる性質の医薬品ではないため、効果が現れなくとも6か月程度服用することが必要である。
- c ビタミンが配合された保健薬のうち、1日最大量が既定値を超えるものは、医薬品としてのみ販売されている。
- d ビタミンAの摂取量が欠乏していたと思われる妊婦から生まれた新生児において、先天異常の割合が上昇したとの報告がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問55

漢方の特徴および漢方薬使用における基本的な考え方に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 日本の漢方医学に基づく漢方薬は、現代中国で利用されている中医学に基づく中薬、韓国の韓医学に基づく韓方薬とすべて考え方は同じで、区別されてはいない。
- b 漢方薬は、漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いるが、漢方の病態認識とは虚実、陰陽、五臓のことであり、気血水は含まれない。
- c 漢方処方製剤の用法用量において、適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後3か月未満の乳児には使用しないこととされている。
- d 一般の生活者では「漢方薬は作用が穏やかで、副作用が少ない」などという認識がなされていることがあるが、まれに肝機能障害や間質性肺炎のような重篤な副作用が起きることがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問56

肥満症に用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 肥満症向けの漢方処方製剤は非常に効果があるため、服用中は糖質や脂質を含む食品を過剰に摂取しても差し支えない。
- b 大柴胡湯は、体力が充実して脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、便秘の傾向があるものの胃炎、神経症、肥満症に適している。
- c 防風通聖散は、体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人、発汗傾向の著しい人では、激しい腹痛を伴う下痢の副作用が現れやすい。
- d 防己黄耆湯は、体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなもの的高血圧や肥満に伴う便秘、ふきでもの、肥満症に適している。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |

問57

殺菌消毒薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 手指または皮膚の殺菌・消毒を目的とする消毒薬は、医薬品としてのみ製造販売されている。
- b 次亜塩素酸ナトリウムは、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示し、手指または皮膚の消毒に用いられる。
- c 消毒薬を誤って飲み込んだ場合、一般的な家庭における応急処置としては、誤飲してから数分以内に多量の牛乳または水を飲ませるのがよい。
- d クレゾール石鹼液原液が皮膚に付着した場合には、刺激性が強いため、直ちに石鹼水と水で洗い流す。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問58

有機リン系殺虫成分に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

ジクロルボスやクロルピリホスメチルの殺虫作用は、(a)を分解する酵素と(b)に結合してその働きを阻害することによる。これらの殺虫成分は、ほ乳類や鳥類では速やかに排泄されるため毒性は比較的低い。高濃度または多量に曝露した場合には、神経の異常な興奮が起こり、(c)、呼吸困難、筋肉麻痺等の症状が現れるおそれがある。

	a	b	c
1	ドーパミン	可逆的	縮瞳
2	ノルアドレナリン	不可逆的	散瞳
3	アセチルコリン	可逆的	散瞳
4	ドーパミン	不可逆的	散瞳
5	アセチルコリン	不可逆的	縮瞳

問59

一般用検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用検査薬は、薬局においてのみ取り扱うことが認められている。
- b 検査薬は、対象とする生体物質を特異的に検出するため、結果が陰性の場合には検体中に対象物質が存在していないことを意味する。
- c 擬（偽）陽性とは、対象物質が検体中に存在していないにもかかわらず、検査対象外の物質と非特異的な反応が起こって検査結果が陽性となった場合をいう。
- d 悪性腫瘍の診断に関係するものは一般用検査薬の対象外であるが、染色体異常など、一部の遺伝性疾患については、一般用検査薬の対象となっている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問60

尿タンパクおよび尿タンパク検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 尿中のタンパク値に異常を生じる要因に尿路結石や腎炎などがある。
- b 腎臓に病気がなければ、激しい運動をした後に尿タンパクが出ることはない。
- c 正確な検査結果を得るため、検査薬を長い間尿に浸しておく必要がある。
- d 検査結果で尿タンパクが陰性であれば、症状があっても、医療機関の受診を考える必要はない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤